

「その道を同じく行く」

道心と云ふは、昔より三国皆貧にして身を苦しめ、省つづまやかに約つづまやかにして慈有り道有るをまこと実の行者と云ふなり。

徳の顯あらはるるに三重あるべし。先づは、その人、その道を修するなりと知らるるなり。次には、その道を慕ふ者出来たるいでき。後にはその道を同じく行ずるなり。是れを道徳（＝道德）の顯はると云ふなり。

（正法眼蔵随聞記 水野弥穂子訳 筑摩書房 p161）

- ・お盆（墓参の日）の会話から
- ・眼蔵会（田上町東龍寺さま）の出来事（会話）から

お釈迦さまと同じ道を行く、とは